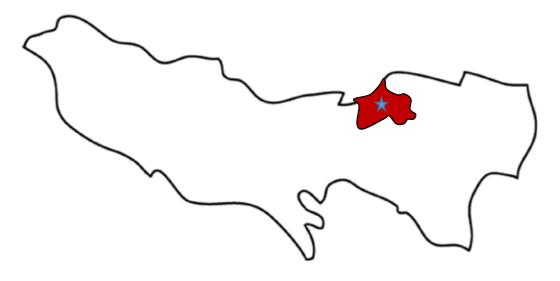
中村橋

16N1107 成澤拓人 16N1073 杉本圭輝 16N1078 関口剛 16N1139 村中龍一 東京都練馬区中村橋 人口 733150人 (2018.4/1) 面積 48.01k㎡



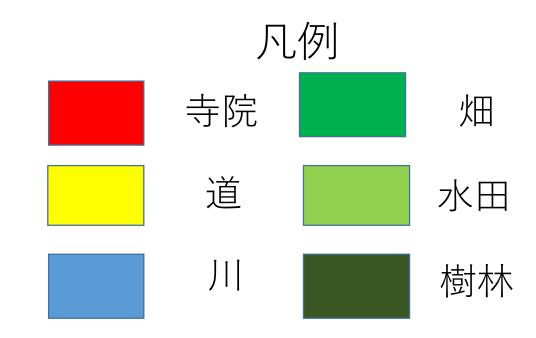
旧内田家住宅 明治20年代初めに建てられ、 平成22年に石神井公園に移 築された。

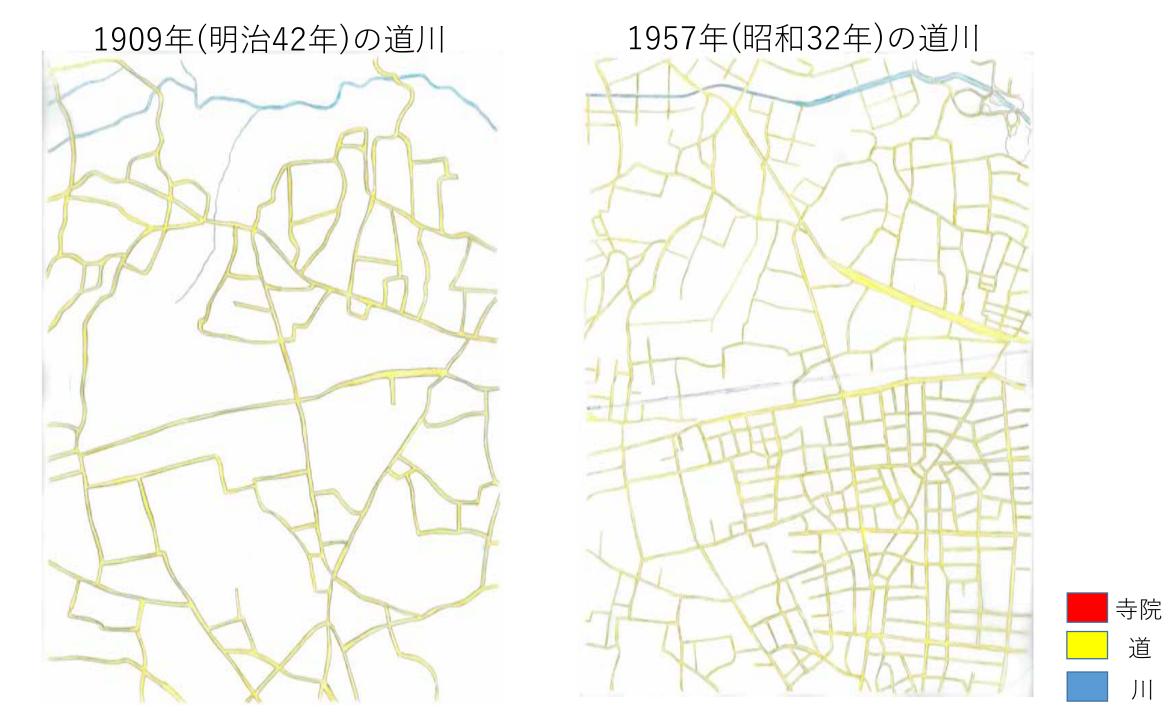


比較した年代

- ・内田家が建てられた頃の1909年(明治42年)
- ・改築した1957年(昭和32年)
- ・現在の2018年(平成30年)

各時代の地図をトレースをして、 都市の変化を調べてみた。道・川 と住宅や畑などでトレースを分け て、土地の変遷を表した。





畑

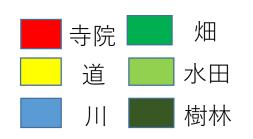
水田

樹林

1909年(明治42年)と1957年(昭和32年)の道川の地図を重ね合わせた地図

明治から昭和にかけて、道が整備され始めた。 中村橋駅より南側は区画整理されたのか、直 線で交わるような道が新しく整備された。

石神井川の流路が変わっていることからこの時期に石神井川が整備されたと考える。

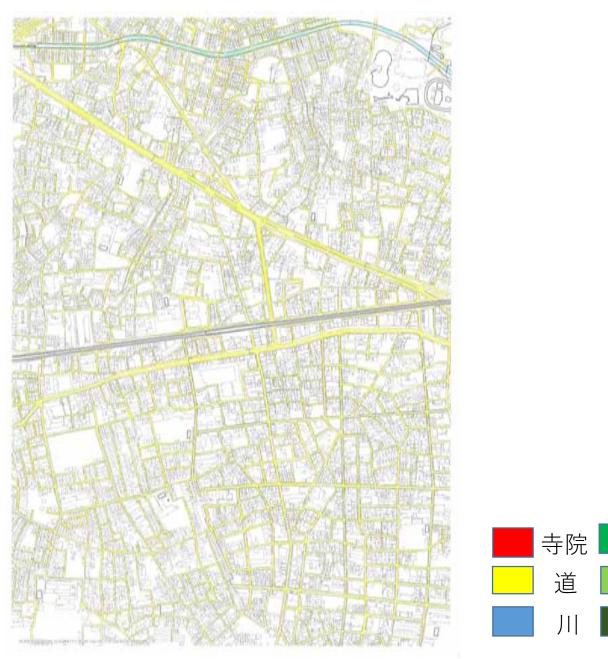




1957年(昭和32年)の道川



2018年(平成30年)地図



畑

水田

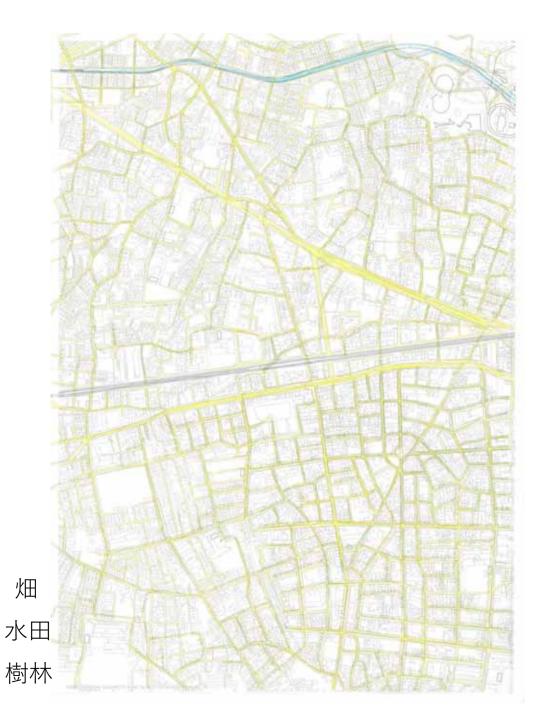
樹林

1957年(昭和32年)と2018年(平成30年)の道川を重ね合わせた地図

昭和から平成にかけて道路に大きな変化がない。昭和に比べて細かな道が増えた。

寺院

道



1909年(明治42年)の住宅・寺院・畑・樹林 1957年(昭和32年)の住宅・寺院・畑・樹林





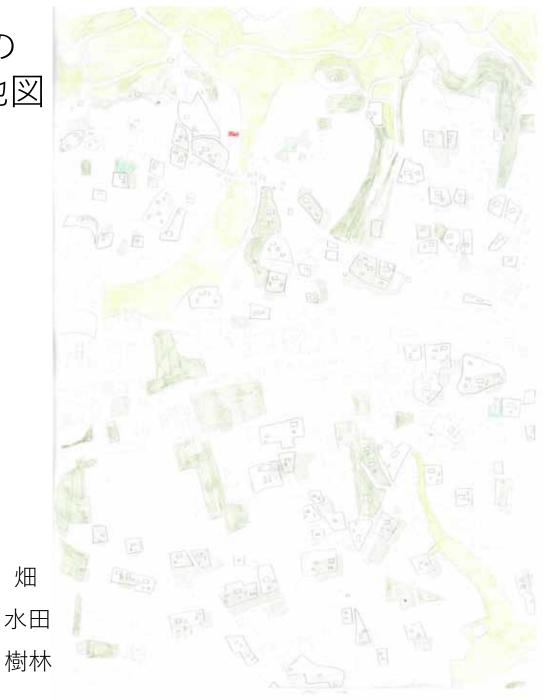
1909年(明治42年)と1957年(昭和32年)の住宅・寺院・畑・樹林を重ね合わせた地図

明治時代に石神井川周辺で広がっていた水田が昭和時期には減り、畑に変わっている。

1915年(大正5年)武蔵野鉄道(今の西武鉄道)が開通し、鉄道沿線を中心に建物が増えていった。

寺院

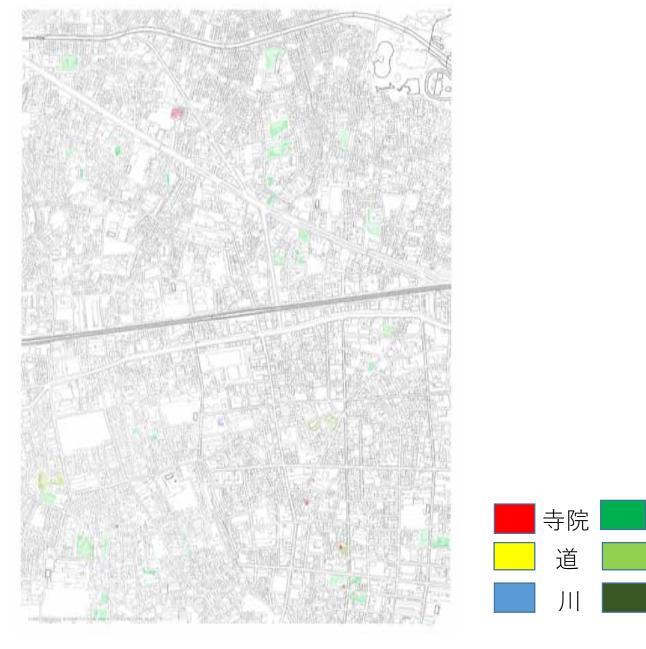
道



1957年(昭和32)年の住宅・畑・樹林



2018年(平成30年)の住宅・畑・樹林



畑

水田

1957年(昭和32年)と2018年(平成30年)の住宅・畑・樹林を重ね合わせた地図

昭和にはまだ残っていた農地がほとんどなくなり、 住宅や建物がほとんどの敷地を占めるようになっ た。

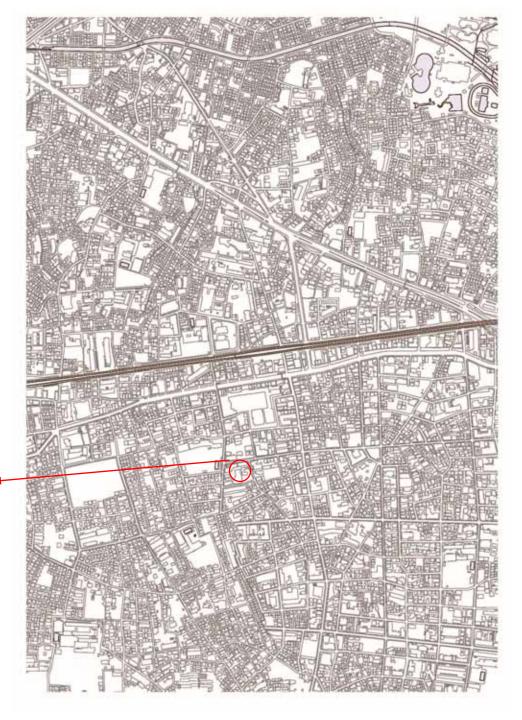
樹林は明治から残る民家の土地にそのまま残っていると思われる。



・内田家







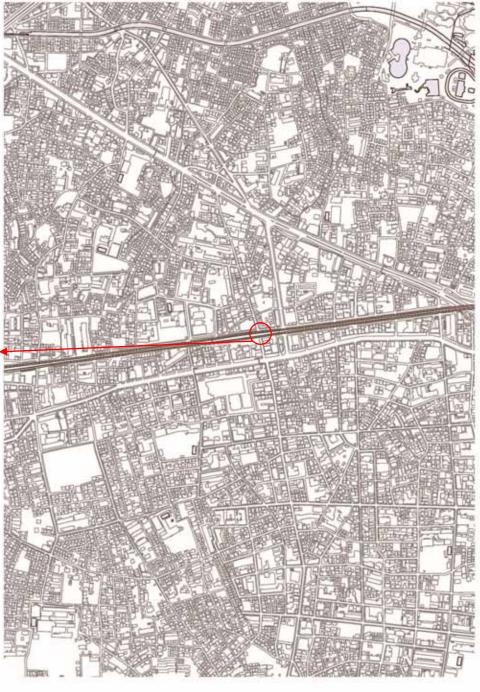
• 中村橋駅

旧駅舎



現在の駅舎





1997年(平成9年)線路が高架下から高架上に上がった。

•石神井川 • 橋



• 石神井川 • 石川橋





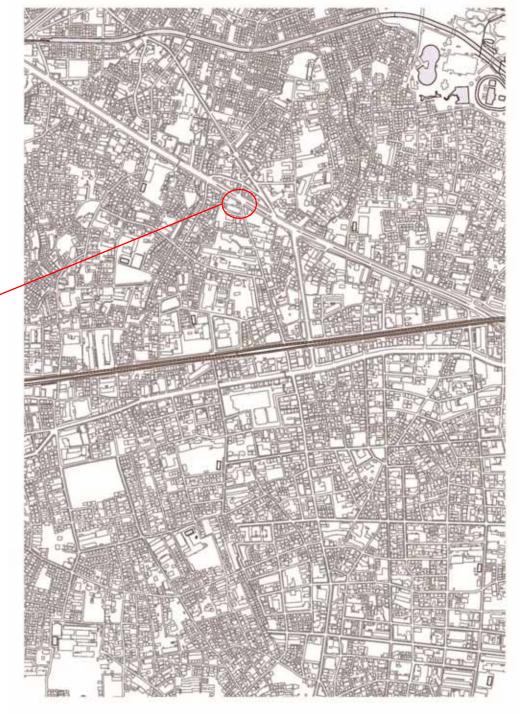


- ・川の流路は変化したが、明治から変わらずに残る橋。
- ・川はコンクリートで整備されていることから、人工的に流路が変更されたと思われる。

・目白通り交差点

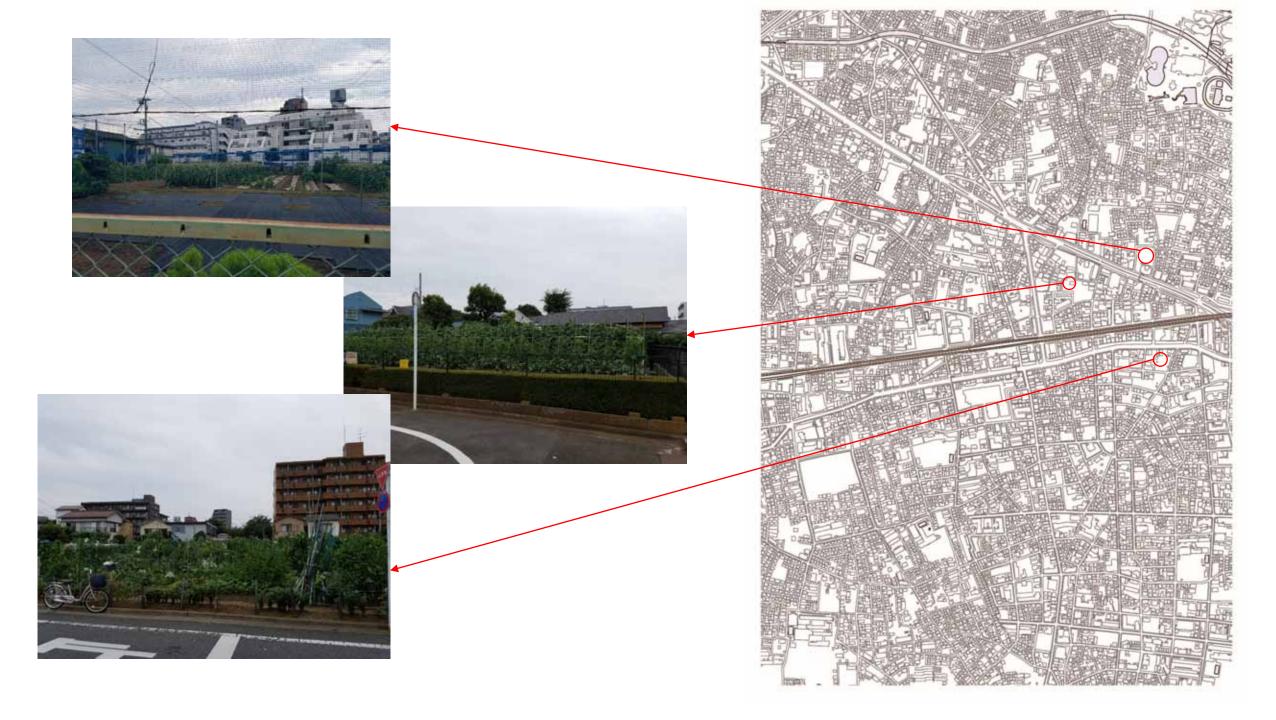


明治の時から主要道路として使われていた目白通りの交差点



畑



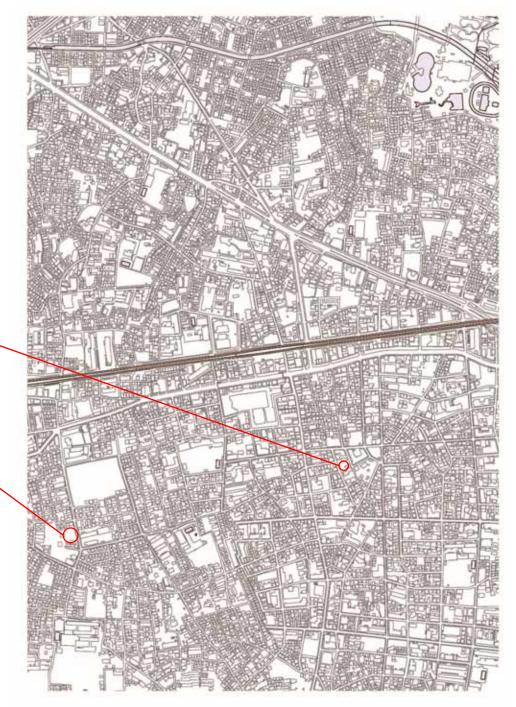


樹林





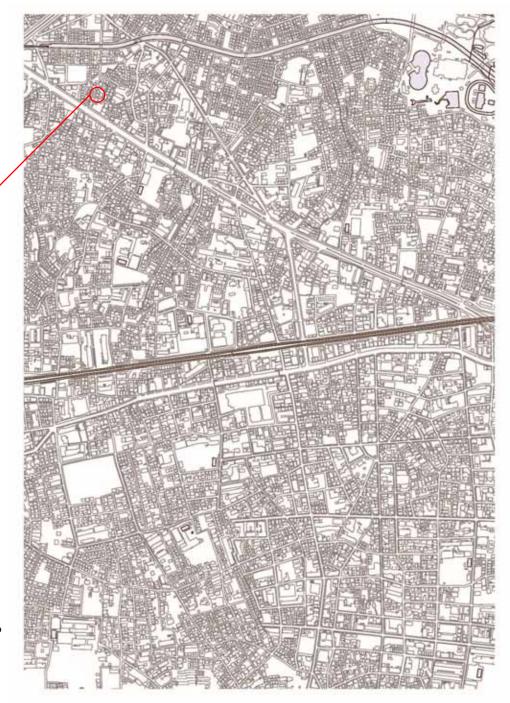
今も変わらず残る樹林。昔からある民家の木々だと思われる。



・元お寺?



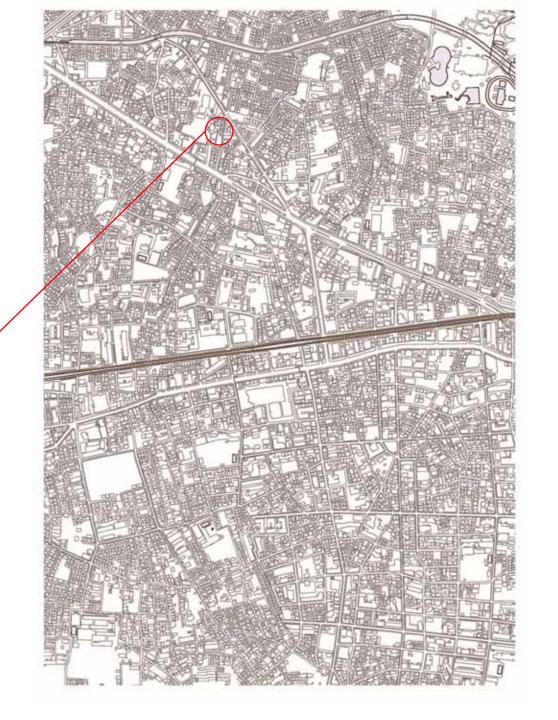
明治時代にはあった寺院がなくなって今はお墓のみが残っていた。



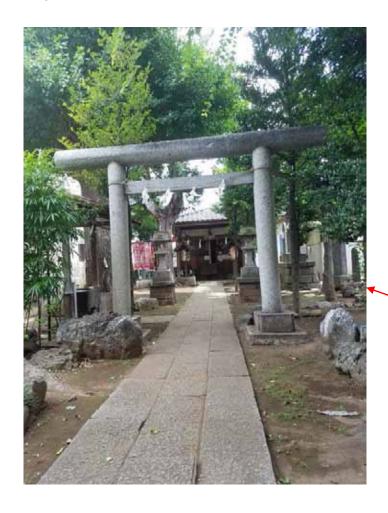
・貫井寺・円光院



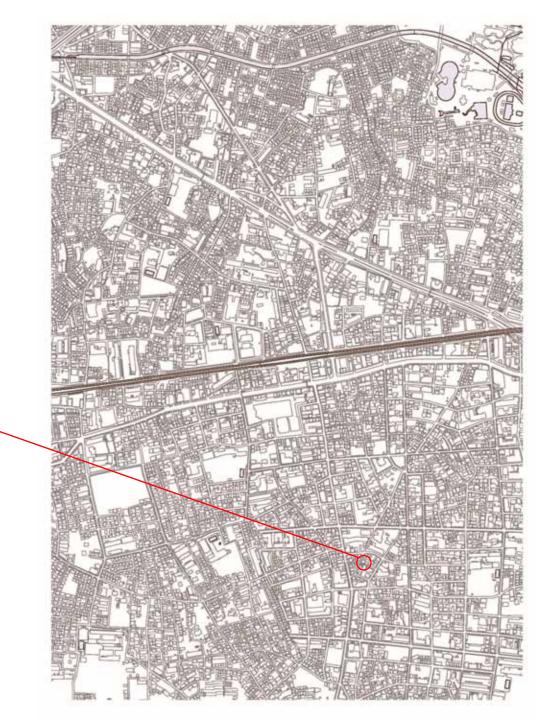
江戸時代から残っている寺院。昭和38年に改築。



• 御嶽神社



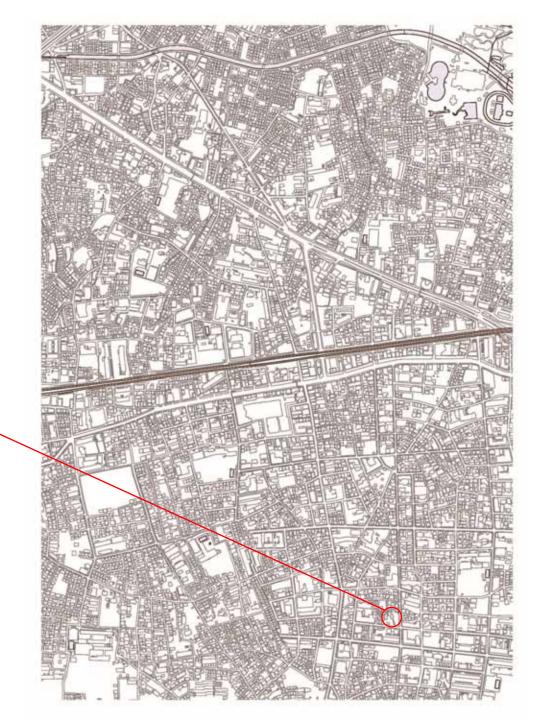
江戸時代幕末から残っている神社。 昭和52年に改築。



• 八幡神社



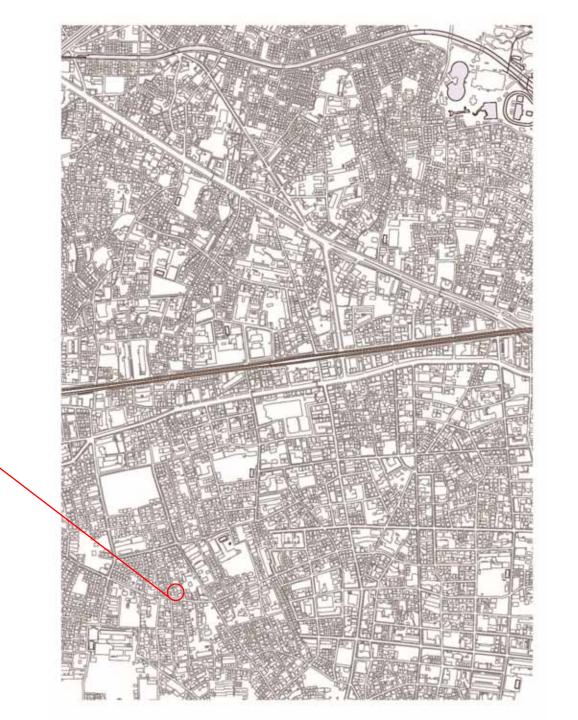
江戸時代から残っている神社



・北原神社



昭和のときになかった寺院が平成になり新しくできた。



考察

人口増加に伴い、畑が減り住宅などの建物が増えていった様子が見受けられた。 かつて、石神井川の周辺に広がっていた水田は面影がなくなっていた。